

●時代の流れを激しく感じるこのごろである。新しく生まれ変わったショッピングセンターに足を運ぶと、現代人が何をほしがっているのか垣間見る気がする。クリニックや病院もどんどん新しく近代的になっていくが、患者さんを大切に作る気持ちは昔と変わらないでいたい。今回表紙に用いた手書き文字の「神皮」に、人としての心が伝わってくるように思うのは私だけかしら…。編集を通していつもいろいろ勉強させられます。(野村有子)

●相模原の病院に赴任して3年が過ぎたが、優秀なウンテンに恵まれ大分楽をさせてもらっている。余裕がでてきたので地域の皮膚科の先生方とも交流する様になり、業務外でも「病診連携」をするようになった。さらに地域の住民とも夜な夜な交流するようになり、タクシー代がかさむようになってきた。地域医療ばかりではなく、経済の活性化にも貢献している(と勝手に解釈している)毎日である。結局昨年あまり進歩していない。(川口博史)

●今号では故原先生の様々なエピソードをお伝えすることができました。私個人も第100回の皮膚科学会でデルマ太郎に任命され、原先生の開業医としてのすばらしさにふれることができました。以下はその仮面劇の脚本の一部、原先生のお言葉です。「受診の自由はいかなる時代でも確保しなければなりません。医者は患者を選ばませんが、選ばなくとも、ファンだけが残っていくのです。フロントの医療でこの自由が制約を受ける時代にしてはいけません。私たちは皮膚科的手法を得意とするお医者さんであり、守備範囲は守っても、窓口を狭めてはいけません。」(浅井俊弥)

●世の中の雑誌が次々と廃刊になる不況下、本誌はスクスクと発展し続け、10号を発刊することができました。楽しい原稿を寄せていただいた皆様のおかげです。

それにしても太田真由美先生の、アメリカ人もビックリの食欲はすごいですね。先生は昨年12月の例会時に入会していただけたとのことで、懇親会時にフードファイターぶりを拝見するのを楽しみにしていましたが、急に千葉へ転勤されました。残念。(木花 光)

●最近どの病院に行っても「患者様」と書いてあります。以前に医者と患者様の椅子の問題があって、あれは決着したのでしょうか? どうしてこうなったのか良く分かりませんが、ただ「お客様」と「お客さん」の違いなら何とか分かります。前者はデパートのアナウンス、後者は「お客さん、終点ですよ」と肩をゆすられハッと目を覚ます時です。それに「様」で書いてあっても呼ばれる時はいつも〇〇さんです。(塩谷千賀子)

●毎年「おどろきモモの木……」を書き綴り今回でパート8に至りましたが、今年から編集委員の末席に加えていただきました。「神皮」も年々質量ともに厚みを増し、バラエティーに富んできました。これも皆様の御協力と今までの編集委員の御努力の賜物でしょう。これからも、披露宴スピーチの達人である木花委員長のもと、少しずつ編集の仕事に慣れていきたいと思っています。(宮本秀明)

●原会長が逝き、菅原新会長が就任。貴乃花は引退し、松井は巨人を裏切って米国へ。いやがうえにも時代の流れを感じます。そろそろ皮膚科の学界も衣がえが必要か。(林 正幸)

神 皮 〈第10号〉

2003年 3月 2日発行

発 行 神奈川県皮膚科医学会

発行人 菅原 信

〒247-0062 鎌倉市山ノ内635

電話 0467-47-8223

制 作 かまくら春秋社

表紙のことは●鳥の学校

今日は寄生虫学の講義。講師のハゲワシはオウムの質問責めにあっています。教壇の下ではオカメインコとポタンインコが喧嘩中。お弁当持参でまじめに聞き入るムクドリの間人たちの後ろではペリカンが早弁中。どさくさにまぎれて入ろうとする遅刻組のダチョウとキウイに、立たされているフラミンゴとコキサカオウムが文句を言ってます。睡魔と闘うワシミズクの前ではコンゴウインコが机をかじるのに夢中です。さっぱり授業は進みません。(中野祐美子)